

校内適応指導教室の運営(例) ～〇〇ルーム～

1. 目的

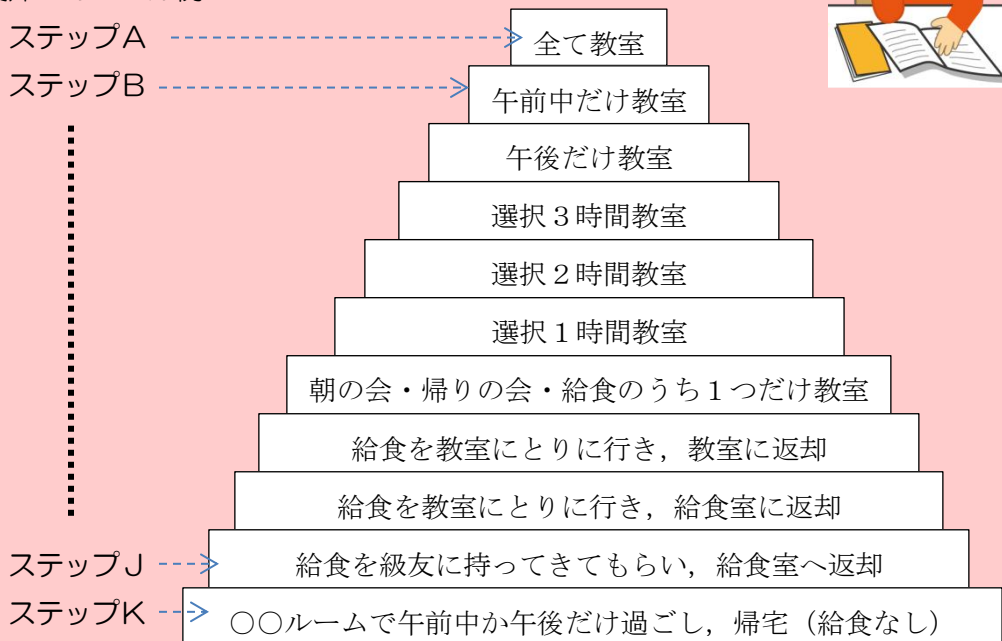
- ◎所属する学年や学級に復帰することを目標に、学校生活や学習に取り組むための教室である。
- ◎基本は、所属する学年や学級の動きに合わせ、自習を中心に規則正しい生活をさせる。

2. 一日の流れ

- ・登校時刻は、全校生徒の登校完了時刻より15～20分程度遅い時刻を設定し、他の生徒と会わないような配慮をする。
- ・登校したら、先生に登校したことを知らせる。
(保健室の先生の場合もあれば、学年の先生、管理職の先生の場合もあり)
- ・登校時刻をファイル(日誌)に記録する。
- ・個人の目標、過ごし方の計画を立てる。
- ・原則として、〇〇ルームでは校時表に従いながら自学自習を行う。
- ・学校行事や学活など参加できそうなときは、自分のペースに合わせて参加する。
- ・掃除の時間は、〇〇ルームの掃除を行う。
- ・帰りの放送を聞いたら、帰りの会の時間の途中に下校する。
- ・下校するときは、担当の先生に伝え、帰宅時刻を記録する。



3. 教室復帰へのレベル例



4. 教室復帰への工夫

- ◆全職員が、校内適応指導教室の児童生徒と関わることで、「学校は安心できる場所」「自分は見守られている」という思いをもたせ、『居場所づくり』へとつなげる。
- ◆〇〇ルームに複数の生徒が在室している場合は、給食を全員で食べるようにし、小集団での生活場面も設定する。
- ◆定期的に児童生徒とスクールカウンセラーとの面談の時間をもち、気軽に相談できる体制を確立させておく。